

## かがやく寺家っ子 とこしえに

3月15日(金)、春の到来を感じさせる晴天の中、第116回卒業式を行いました。

33名の卒業生は、3年近くの新型コロナウイルス感染症の流行によってさまざまな教育活動が制限されましたが、5月から寺家っ子同士が関わり合える環境や触れ合える機会をつくってきました。そのことを誇りに、式に臨む姿は大変立派でした。その6年生に、本校出身の詩人 高島高さんがつくった校歌の歌詞に、私の思いや願いを込めて式辞を述べました。以下、式辞の一部です。

校歌の一番には、空気が冷えて雪が降りつもった立山と荒波が海岸に打ち寄せて音を立てている日本海がうたわれています。こうした厳しい冬は嫌われがちですが、その冬を経験することで、簡単にあきらめない、投げ出さない粘り強さが私たちの中にはぐまされるのです。これは、季節に限ったことではありません。これからみなさんは生きていく中でつらいことや困難なことに会うことでしょう。厳しい冬と同様に、つらく困難なことがあっても、粘り強く努力し続けてください。そして、その経験がみなさんの心を強くたくましくしてくれることを忘れないでください。

校歌の二番にある花というのは桜です。桜は、寺家小学校の校章にもなっているとおり、なじみの深い花です。その花は散ることがあっても、変わらないのは学びの道であると二番でうたっています。学びというのは勉強と違って、自分から進んで行うものです。みなさんは、この二年間、科学の時間に行ったチャレンジサイエンスを通して、自分でテーマや問いを見付け、自分で仮説を立て、練習や実験・観察などの方法を考えたり工夫したりしました。また、答えのない問いに向き合っている人もいました。その学びの心をいつまでももち続けてください。

校歌の三番の歌詞にある「新天地」とは、新しい世界のことを意味します。この学校を卒業するみなさんにとっては、中学校のことです。中学校では新しい学習が始まります。それは小学校と比べて時間も空間も広がり、まさに「世界の文化を身に付けて」いくこととなります。また、学校生活も新しくなります。「正義自主の旗高く」とあるように、善悪を区別する心、つまりけじめをもって自ら進んで考え、行動することがますます大切になります。新しい学校生活をきっかけに、新しい自分をつくる意気込みをこの校歌から感じてほしいと思います。

(中略)この三つは、寺家小学校の校訓「自啓」の心にも通じます。もし、「自分はこれでいいのかな」と迷ったとき、悩んだとき、「自啓」の心をうたった校歌を思い出してください。きっとみなさんを励まし導いてくれます。

寺家小学校の校歌は、冬から春へ、そして新天地に向けての巣立ちという構成になっています。このすばらしい校歌を折々に歌うことで、自分の生き方をみつめ見直す拠り所となります。卒業生も在校生も「寺家っ子」として、“とこしえにかがやく”ことを願っています。 (校長 広田積芳)

滑川市立寺家小学校 校歌  
作詞 高島 高  
作曲 高田三郎

一 そびゆる立山 雪さえて  
千古にかおる 名をとどむ  
ひびきたえなる 有磯海  
たゆまぬ力 さとしうつ

二 花さき花は うつろえど  
学びの道は いつの世も  
かわることなし 我らみな  
はげまん寺家の 学びやに

三 世界の文化 身につけて  
かがやく我ら とこしえに  
正義自主の 旗たかく  
進まん希望の 新天地

(昭和23年11月制定)



【寺家小学校の校章】